

I 研究主題

互いの存在を認め合うやすぎっ子の育成

～自分が好き、みんなが好きという気持ちを育むためには～

II 主題設定にあたって

1. 園の特色や園をとりまく地域の教育的環境の概要

安来市の中心にあり、開園から 100 年を迎えた。園舎は大きな木々に囲まれ、四季の移り変わりや人との関わりの楽しさ、温かさを感じながら子どもたちは のびのびと遊んでいる。

○ひと・もの・ことに支えられ、活かされる体験活動

中海でのゴズ釣り・伯太川土手の散策・社日山探検は、子ども達にとって心躍る楽しい体験である。子ども達の体験がさらに広がり深まるように日々計画をしている。また、地域の行事やイベントに参加することで、子ども達のやり遂げた自信が心の成長につながっている。

○その子らしさを大切に、人とくらす楽しさを実感する活動

園では、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、人と一緒に園生活を楽しみ、創り出していくことを願い、保育を進めている。また、同時に気持ちよく暮らしていく規範意識や社会生活のルールも、日々の保育の中で大切にしている。

2. 主題設定の理由

子ども達は素直で、人懐っこい子どもが多い。しかし自信がなく、様々な活動をやってみたいと気持ちは動くが、自分の気持ちを表現していく事が苦手なように感じる。

このような事や子ども達の個々の育ちや経験も踏まえて、教職員が子どもの気持ちを感じたり、あるがままの存在を受けとめたりする事で、子どもは自分が大切にされていると感じ、自信や信頼、安心の心を育み、のびのびと自己表現できると考える。

そして、友だちと一緒にいる心地よさや一緒に活動する楽しさを味わい、それらの気持ちを積み重ねることで、相手の気持ちを知って受けとめたり、認め合ったりする心を育てて行きたい。

園全体の 9 割が核家族で生活しており、地域はもとより子ども・保護者同士の関わりも希薄で、気軽に子育てに関する話題を分かち合うことが少ないのではないかと考える。また、子どもたちは様々な体験や、自然との関わり、異年齢の子どもたち同士の関わりも少ないと思われる。

そこで、サブテーマにある「自分が好き」「みんなが好き」という気持ちを育むために、援助の工夫を探り、保護者に向けてもこの機会にどのような手立てをすればよいのか提案して、実践していこうと考えた。

主題の受け止め

「互いの存在を認め合うやすぎっ子」

- ・自分の思いも相手の思いも大切にする子ども
- ・誰とでも話したり、遊べる子ども
- ・身近な人・こと・ものを大切にする子ども

「自分が好き」

- ・大切にされている感じて、安心して過ごす
- ・自分をありのまま受け止めている
- ・自分の思いをだし、生き生きと遊ぶ

「みんなが好き」

- ・友だちがいると、居心地がいい、楽しい
- ・友だちの思いも受け止めて、関わろうとする
- ・周りの人へ思いやりの気持ちをもって関わる
- ・いろいろな人・ものと関わるのが楽しみにできる

III 研究の目標

互いの存在を認め合う幼児を育てるために、自分が好き、みんなが好きという気持ちを育むための援助や環境構成について、保育実践を通して探る。

IV 研究仮説

- ①幼児の心情や育ちから、個々の様子に合わせた援助を工夫していくことで、自分が大事にされていると感じて、自信をもって自分を発揮できるようになるのではないか。
- ②幼児が互いの思いを出し合える場を工夫することで、相手の良さに気づき、思いやりの気持ちをもって主体的に関わろうとするのではないか。

V 研究の内容と方法

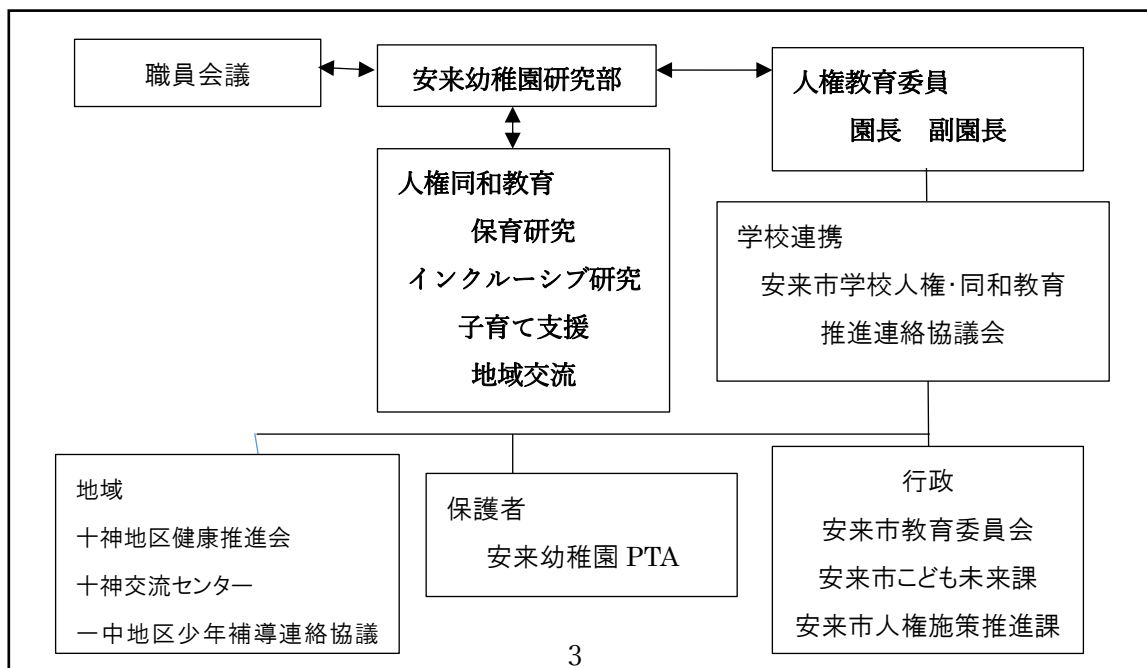
内 容	方 法
幼児の心情や育ちから、個々の様子に合わせた援助の工夫	(1) 子どもの表すしぐさ、表情、言葉などからその気持ちや思いを肯定的に捉え、受け止める。 ①全職員による子ども理解 ・伝え合いの仕方の工夫をして子ども理解を深める ・定期的なケース会議の開催 ・子どもの安心を支える保育者の関わり ②園全体が安心できる雰囲気、場となるための職員の意思疎通 ・日々の語り合い ・園内研修 (2) 子どもの自己決定を促す ①子どもが選びとって遊べる環境構成 ・(イメージを広げたり、表現したりするための) 多様な道具や用具、

<p>幼児が互いの思いや考えを出し合える場の工夫</p>	<p>素材の準備や配置の工夫（環境の再構築）</p> <p>②自己決定を促す保育者の声かけ</p> <p>(3) 自分や友だちが楽しんでいること（達成感や満足感）、困っていること等を一緒に感じ、気持ちを共有する。</p> <p>①周りの人に受け止めてもらう、認めてもらう場作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まりの仕方の工夫（いつ、どこで、だれと） ・友だち（他者）と気持ちを共有するための保育者の関わり <p>②保護者の温かい関わりを支えるアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心を通わせる情報発信、情報交換の工夫 ・保護者の不安や思いを受け止め、保護者の自己肯定感を高める <p>(4) 友だちと一緒に遊ぶと心地いい、楽しいと感じられる場の工夫</p> <p>①友だち（他者）との関わりが生まれる場（活動）の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での活動（げんきっこタイム） ・共通の目的（イメージ）の実現に向けて協同して遊ぶ場作り ・友だち（他者）同士をつなぐ場の設定や声かけ <p>②地域行事、園外活動の計画的な実施</p>
------------------------------	---

VI 研究計画

1年次（令和5年度）	2年次（令和6年度）	3年次（令和7年度）
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態把握 ・研究主題の立案と実践 ・実践事例を通して共通理解と保育の見つめ直し ・研究主題及び研究構想の再検討 ・1年次のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題及び研究構想の再検討 ・研究内容と方法の具体化 ・保育実践の分析と考察 ・個々の子ども理解を共有 ・実践事例より共通理解を図る ・2年次のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容と方法の再検討 ・保育実践の分析と考察 ・3年次のまとめ

VII 事業の組織及び推進体制の概要



事例1 〈子どもの実態把握とそこから見えてきた課題と手立て〉内容・方法(1)②

① KJ法を使って、焦点化する



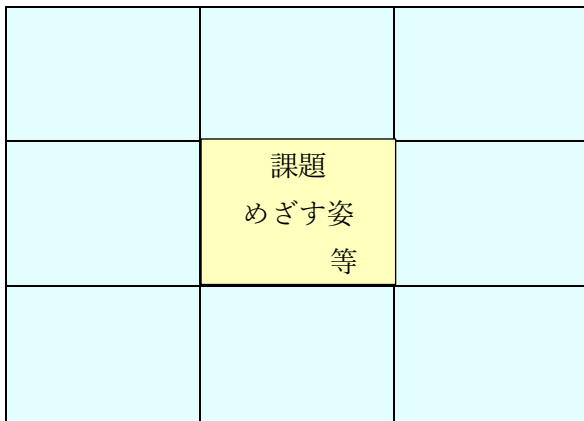
実態把握

良い(素敵な)面⇒青付箋
課題(より良くしたい)面⇒ピンク付箋

島根県幼児教育センター
指導講師
八木 優先生
園内研修の場面
令和6年1月26日

② マンダラチャートを使って、課題に対して、手立てを考える

課題解決や「めざす姿」の実現のための研究の視点、内容や方法のアイデアを出し合う



・それぞれの保育者の感じている子どもの課題、姿を出し合ったら、共通していたことや気づきがあった。課題が明確になったことで、そこに向かっての手立てをみんなで出し合い、共有することができた。

〈子ども理解を深めるケース会議〉内容・方法(1)① 令和6年5月8日
担任がクラスの子どもの様子を持ち寄り、話し合いをする。

名前	今の姿	保育者の読み取り	めざしている姿	手立て

子どもの姿	保育者の読み取り	めざしている姿	手立て	
高野(つとむ)	「よいアイデアを自分の力で思いつける?」	「きんこしんは、自分から思いつける。また、誰からも思いつける。友だちに対して、思いは聞かなくていい。聞いてほしいの?」	「きんこしんは、自分から思いつける。また、誰からも思いつける。友だちに対して、思いは聞かなくていい。聞いてほしいの?」	「本意のとおりを伝えようとする。友だちの思いを聞いてほしい。友だちの思いを聞いてほしい。友だちの思いを聞いてほしい。」
山崎(はな)	「自分の思いを伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」
長瀬(こうた)	「自分の思いを伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」
徳丸(そら)	「自分の思いを伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」	「友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。友だちの思いも伝える。」

・担任が持ち出した個別の子どもの姿と保育者の思いを共通理解した上で、担任外から見た子どもの姿、他の保育者との関わりの様子を伝え合う。
⇒めざしている姿や手立てが見えてくる。全職員が同じ思いで子どもを見ることができる。

事例2 言葉や文化が異なる友だちと互いの気持ちを受け止め合って楽しい気持ちを共有できた事例

(A 児・B 児 4 歳児ゆり組 C 児 3 歳児ばら組)

【幼児の実態】

A 児 (4 歳児) - 誰とでも分け隔てなく遊ぼうとする姿があり、自分の気持ちもしっかりと伝えようとする。

B 児 (4 歳児) - 来日して 5 か月。まだ日本語理解が難しい。遊びや生活の面でも経験していないことが多く、目新しいことや友だちのしていることに興味関心が強い。自分の気持ちを表情や身振りで伝えようとする姿がある。

C 児 (3 歳児) - 4 月に入園した。(B 児の弟である) 姉と同様に、遊びや生活の中で生じる様々な決まりごと (物の貸し借りや順番に並ぶなど) を理解することが難しく、自分の好きなことを自由に楽しんでいることが多い。思いが通らないときは、表情や態度にして示す。

【保育者の願い】

お互いの考えや表出する姿を受け入れ合いながら、友だちと一緒に遊んだり、過ごしたりすることの楽しさを感じて欲しいと思っている。

幼児の姿	◆環境構成と保育者の援助 ♡保育者の読み取りと意思 内容・方法
<p>A 児が砂場で水路を掘っている。 B 児、C 児がやってきて、水路を崩し始める。 A 児： 「やめて！壊さないで！ノン！！」 B 児・C 児： ムツとした表情を見せ、先ほどよりも力を込めて崩している。</p> <p>T：「B ちゃん C くん、A ちゃんの顔をみてごらん。 悲しい顔だよ。困っているよ。」 と伝えるが、B 児 C 児も怒っているポーズ (腕組み) をしている。</p> <p>T：A 児に対して 「A ちゃん悲しいね。B ちゃん達、A ちゃんが何をしているのかわからなかったのかなあ。 こんな風に迷路みたいに作ったり、お水を流したりしことないのかなあ。」 「どうして A ちゃんが「やめて」って言ったのかわからなかったかもしれないね。」</p> <p>A 児は、黙ってうなずき、B 児 C 児の姿を見つめ</p>	<p>◆一瞬、止めようと思うが、お互いがどうするか気になり、見守る。 ♡A 児なりに「やめて」という思いを伝えようとしているが、2 人にはうまく伝わっていないように見える。 ♡B 児、C 児はなぜ行動を否定されたのかわからず、A 児も「なぜ作っているのに壊すのか」とお互いが分かり合えず悲しい気持ちでいるように見受けられた。 ♡A 児の気持ちを、保育者が指差しをしながら伝えるが、B,C 児たちの表情からはそのことを理解していないように見え、どんな伝え方をするとよいのだろうかと思い悩む。</p> <p>◆A 児の気持ちに寄り添い声をかけながら、B,C 児たちの行動はどんなことを伝えたかったのか、A 児なりの思いも引き出してみる。</p> <p style="text-align: right;">(2)②</p> <p>♡A 児の表情やうなずく姿から気持ちを受け止</p>

<p>ていた。</p> <p>T:「Aちゃん頑張って作っていたから嫌だったよね。」</p> <p>T:「Bちゃん、Cくん、Aちゃんが楽しそうだったから、一緒にやってみたかったね。入れて言うんだよ。いい?って聞くんだよ。」</p> <p>A児:「あっそうだ。ここを掘って、見てて。こうするの。ここは大事だからやらないで。」</p> <p>A児は身振りを入れて、一生懸命伝えようとしている。</p> <p>A児:「それで、水を流す。ほら!」</p> <p>B児C児:「わあ!」</p> <p>T:「わあだつてー」「びっくりしてるね。Aちゃん、上手に伝えたね。」</p> <p>M児:じょうろを取りに行き、水を持ってくる。 A児とTの方を振り向き、視線を合わせてくる。</p> <p>T:「Aちゃん、いい?って聞いているんじゃない?」</p> <p>A児:「いいよ。水入れて。」</p> <p>C児:じょうろで水を入れると、水が水路を流れる。 その様子を3人で笑いあっていた。</p>	<p>め、B児やC児のA児の遊んでいる姿を見て「おもしろそう」と心が動いた姿も受け止めてあげたい。 (1)</p> <p>◆二人の思いを受け止めながら、互いが気持ちよく遊べるよう方法を知らせる。(1)、(4)①</p> <p>◆A児なりの方法で伝えようとする姿を、保育者もB,C児の側で一緒にうなずきながら見守るようにした。</p> <p>◆B児、C児の驚きや喜びは保育者も気持ちが繋がった瞬間としてとても嬉しく感じ取れた。A児の仕草やアイコンタクトを駆使しながらわかかってほしい、こうするんだよという伝えたい気持ちが言葉が通じにくくても伝わっていくんだなと感じた。(1)</p> <p>♡C児の「やってもいい?」という気持ちで視線を向けてくる姿に、保育者が言葉のバトンを渡しながらかつ立ちをすることで、友だちを意識しながら遊ぶ姿につながった。</p>
---	--

〈考察〉

互いの思いが伝わらず、双方が「どうして?」という気持ちから口調が強くなったり、怒った表情になったりしていた。A児の気持ちを受け止めながらもB児、C児がとった行動の意味を考え、その背景にある気持ちを受け止めた。保育者がA児の気持ちに寄り添ったことで、A児も安心でき、その安定した心が友だちの思いに気持ちを向けようとする姿につながったのではないかと思った。

また、B児、C児がこれまでどのような経験をしてきたか考え、異なる文化や習慣、遊びなどの多様性に気づけるようかつ立ちをすることは、子ども同士が互いに興味関心を高め、友だちを知ろうとする姿につながると思った。保育者が子どもや家庭がもつ背景を十分に認識し、多様性を認めること、子ども同士が関わり合う姿を見守りながら適切に援助していくことが大切であると感じた。自分たちの思いを知ろうとする保育者や友だちの姿からB児、C児も安心でき、一緒にやってもいい?という思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする姿へと変化が見られたように思う。

受け止めてもらえる安心感、自分を理解してもらえる安心感、それらが満たされていることで、友だちのことも思いやり、やさしい気持ちが広がっていくのではないかと思った。

事例3 遊びの中で仲間意識が感じられた事例（4歳児ゆり組 5月初旬） 内容・方法（4）①

3, 4歳児混合クラスである。様々な活動・遊びを通して自由にのびのびと活動できる関わりを支えながら、子ども自身がいろいろな友だちと繋がり合い、園生活を楽しんでほしいと願っている。

・外遊びをしていると、片付けの時間になった。片付けが苦手なブランコの方に行ってしまうA児だったが、Tに呼び止められ、渡されたおもちゃを持って倉庫に片付けに向かった。再びブランコの方に向かうA児に対し、B児が「A児にも手伝って欲しいな」と声をかける。見るとカートの中に山になるほどおもちゃを積んで倉庫に向かっていった。A児は立ち止まり、B児の方を見ると、再び「Aちゃんに手伝って欲しい」と伝える。しばらく考えたA児は「うん」と言って手伝いはじめ、何度もおもちゃをもって倉庫との往復をした。片付けが終わり、A,B児、保育者の3人で歩きながらどうしてA児と一緒に片付けようと思ったの？と聞くと、「だってAちゃんは仲間だもん。仲間だから一緒に片づけて欲しかったんだ」と伝える。A児はと見ると、嬉しそうにはにかむような笑顔を浮かべながら歩いていた。「そうかー、仲間だものね。Bちゃん素敵な事を言ってくれて先生嬉しいな嬉しいな」と言葉を重ねて伝えると、B児も満足そうな嬉しい笑みを浮かべていた。

《考察》

普段片付けに向かうことが少ないA児であるが、保育者ではなく友だちに誘われたことでしようかなと片付けに気持ちが動いたと思う。B児の「仲間だもん」という言葉は心がふんわりと優しく、嬉しくなる言葉だった。そんな素敵な言葉が自然と出て、みんなが優しい気持ちで過ごせるクラスづくりをしていきたいなと改めて感じた。



(うめ組 5 歳児)

【幼児の実態】

- ・ 5 歳児 8 名のクラス。3 歳児の時からほとんど変わらないメンバーと一緒に過ごしている。
- ・ 自分の思いや考えを保育者には進んで話をする子どもが多い。
- ・ 友だちにも伝え合って遊びを進める姿があるが、自分の考えを譲れないことも多々ある。
また、うまくいかないとき保育者に助けを求めたり、その場から離れてしまったり、遊びを進めることが難しいこともある。
- ・ どの友だちとも関わるができるが、特定の友だちとの関わりの中で遊ぶことが多い。

【保育者の願い】

友だちと関わる中で、いろいろな考えや思いがあることがわかったり、気づきや新たな考えが生まれる楽しさを知ってほしい。そのことが、“友だちといると楽しい”“一緒に遊ぶとおもしろい”という気持ちにつながり、友だちのよさや自分の良さを感じながら、自分を出して楽しんでほしいと願う。

幼児の姿	◆環境構成と保育者の援助 ♡保育者の読み取りと思い 内容・方法
<p>4 月初旬</p> <p>A 児は、登園後、鞆を背負ったまま、みんなが遊んでいる様子を窓にもたれかかって、見ている。</p> <p>T 「A ちゃん、天気もいいし、昨日の続きしようか！」と声をかける。</p> <p>A 児 うなづくが、鞆は背負ったまま、動かない。仲のよい B 児が自分から「一緒にやろうか？」と手伝い始める。</p> <p>T 「友だちっていいね。見てて先生もうれしい気持ちができるよ。」</p> <p>4 月中旬</p> <p>A 児の変わらない姿があった。</p> <p>子ども達がすぐ遊べるよう普段から、いろいろな廃材が使えるよう準備をしていた。</p> <p>A 児の興味がありそうな物を並べておく。すぐに空き容器や空き箱を探し、それを使って自分の作りたい物を作り出す姿があった。</p> <p>T 「この箱好き？きれいだよね。」</p> <p>S 児 うなづく。</p>	<p>◆A 児のことを大事に思っていること、うめ組の仲間という思いが伝わるよう、関わっている。</p> <p>♡A 児のことを気にかけて、手伝ったり誘ってくれる友だちがいることは、A 児にとって心のよりどころとなっているだろうと感じる。</p> <p>◆A 児にとっても B 児にとっても、友だちっていいねということを感じられるよう声かけをする。</p> <p>♡保育者と A 児の気持ちの距離も縮まるよう、A 児との遊びを一緒に楽しもう。</p> <p>◆A 児は、空き箱や空き容器を集めて作ったり、木の実、花を集めることが好きだったので、遊びたくなるよう環境を整えた。 (2)①</p> <p>♡好きなことを一緒に共有していこうと思った。</p> <p>◆いろいろな廃材を持ってきたり、外へ出たときは、花や実があるところに誘ったりし環境も整えていった。 (2)①</p>

<p>T「この箱はね、・・・」など、たわいもない会話もしながら一緒に選んだり、「もっといる？」など聞いて、遊びが楽しいと感じ、どんどん自分から動いていく。</p> <p>少しずつ、「これ!」「こっち。」「いる。」など、言葉が出始める。</p> <p>5月中旬 ～ごちそう作りの場面～ 赤土のとろとろしたものを混ぜ、おままごとを3, 4人の友だちと一緒に楽しんでいた。</p> <p>T「入れて。」と、みんなでクッキー作りをする。次の日、固まったのを見つけ、子ども達「見て～! 固まったよ」と喜びの声。</p> <p>A 児も見えてという表情で、クッキーの載ったお皿を見せる。</p> <p>その後、クラスでクッキーを紹介する。</p> <p>T「今日ね、素敵な?おいしい??ができたんだよ。」</p> <p>みんな何?という表情。知っている子ども達は、うれしそうな表情でTを見つめていた。</p> <p>T「それはね・・・作ったお友達に聞いてみようかな?」</p> <p>A 児たちが、隠すように背中に持って前に出てくる。</p> <p>A 児達は、お互いに目を合わせ、恥ずかしそうにクッキーを見せる。</p> <p>「触りたい」「見せて!」「どうやって作った?」と、周りから声をかけられる。</p> <p>次の日、「絶対休みたくないって言うんです」と初めてそんな言葉を聞いたと母から聞く。</p>	<p>◆本児の遊びを楽しむだけでなく、本児の遊びにちょっと違う遊び方や新たに遊びを提案したり、遊びが広がったり深まったりできるよう支えた。(2)①</p> <p>◆会話の中で、イメージを共有したり、本児の思いを引き出すよう聞いたりすることを意識した。(2)②、(3)①</p> <p>♡A 児が言葉を発し、伝えたい気持ちが膨らんでいることがうれしい。</p> <p>◆一緒にクッキー作りを楽しみ、みんなで楽しむ心地よさを共有する。(4)①</p> <p>♡楽しかったという思いがあったからこそ、次の日の遊びにつながり、友だちと共有することでもっとうれしい気持ちが増したように思う。そして、一緒に遊んだ保育者にもその喜びを共有したいという気持ちも芽生えたように思う。</p> <p>◆クラスのみんがA 児達の遊びに興味を持てるよう声かけをする。(3)①</p> <p>♡友だちの遊びに興味をわいている子ども、自分たちのことを言われていると思っている子どもがいる。みんなが楽しみにしている雰囲気になっている。</p> <p>◆A 児達がワクワクした気持ちで話せるように声かけをする。(3)①、(4)①</p> <p>♡クラスのみんが声かけられ、自分たちの遊びの満足感がさらに増したのではないと思う。</p> <p>♡A 児が、“幼稚園に行きたい、昨日の続きがしたい”という思いを感じて登園してくれるようになり、うれしく思う。</p>
---	--

〈考察〉A 児の楽しい、わくわくする気持ちを支えたいと思い、A 児の興味関心、気持ちや思いを探り、環境を整えた。そして、A 児の気持ちが動いた場面を捉え、保育者も一緒に楽しんだり、気持ちを共有することで、保育者との気持ちの距離も縮んでいったように思う。楽しいという心の動きが、A 児の「見て」と誇らしげに見せる姿や思いを伝えたいという姿になって自然に出てきたように思う。

このことから、一人一人の子どもの様子に合わせて支えることで、遊びたい、楽しいなどの気持ちが原動力となり、子どもの主体的な姿（行動や言葉、表情に表れる）につながっていったように思う。保育者がそこに共感し、認めることで、自分を出してもいいんだ、自分の気持ちを伝えるって楽しい、伝わるうれしさを感じていったように思う。

また、一人の子どもを支えることで、周りにも楽しい気持ち、温かい気持ちが広がることも実感できた。

事例5 子どもが“自分っていいな”“友だちっていいな”と実感をもてるための工夫について

～みんなの きらりん み～つけた！の活用～ 内容・方法(3)①、(4)①

【幼児の実態】

少人数でもあり、クラスのメンバーもほぼ変わらない中、安心して過ごしているように見えるが、自己表出や自信のなさを感じることに気になっていた。

【保育者の願い】

自分の良さに気づいてほしい、自分の気持ちや考えを伝えていいこと、友だちと伝え合うととっても楽しいこと、友だちのよさを感じ仲間っていいな、友だちっていいなと感じてほしい。

“きらりんカード”を通して話し合いをするようになって・・・

子ども達の変化

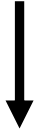
- ・自分の素敵だったと思うところを自分から伝えに来るようになった。うれしそうなお表情で。
- ・友だちのいいところを見つけようとする。(〇〇ちゃん、気づいてあげてたよ。～してくれてうれしかった。)
- ・遊ぶ中で、友だちと力を合わせたり、困ったときに一緒に考えてあげようとする気持ちを行動に移せるようになってきた。(泣いている友だちに寄り添おうとする、友だちの気持ちを感じて自分の考えを新たにしてみる、～したら？とわかるように伝えようとする)
- ・いきいきと生活を楽しむようになった(早く幼稚園に行きたい、明日は～して遊ぶ、〇〇がしたい、率先して生活を進める、あいさつの声が気持ちいい、〇〇ちゃんいいねえと友だちの考えを認めながら、自分の考えも言える)

保育者の変化

- ・子ども達のいいなと思うところをよく見て、たくさん子どもに返せる
- ・職員間でもいろいろな子どもの名前が出てきて、子どもの新たな一面の気づきにつながった
- ・子どもと保育者との温かいつながりが深まり、誰とでも安心できる雰囲気になってきている
- ・保護者ともうれしい、温かいコミュニケーションが多くなり、保護者の安心、子どもと保護者の関係性にもよい雰囲気が感じ取れる。



きらりんカードを貼っています。



きらりんカードをみんなで共有しています。



きらりんシールをもらっているところ

「○○ちゃんの～うれしかったよ」

「○○ちゃんとお友達にきらりんシールをあげるね。」

- ♡リレーで負けてくやしかったけど、がんばって走った。
- ♡・・・ちゃん、友だちが忘れてたものを片づけてあげた。
- ♡○○ちゃんが、うまく作れなくて泣いていたから一緒に作ってあげた。
- ♡困ってたから、～したら？って教えてあげた。
- ♡□□ちゃん、ほしかったかもしれないけど、ちょうだいって言った方がいいよ。って言った。

〈研究の成果〉

方法（1）について

- ・これまでも、クラスの枠を超えて全職員で全園児を支えていくという姿勢で保育を行うようにしてきた。しかし、日頃から子どものことについて話はしているものの、伝達するだけに留まっていたように思う。KJ法やマンダラチャートという方法を使い、保育者一人一人が互いの考え・思いを書き出して共有する事で、共通の課題、めざす姿がはっきりと見えてきた。そして、その課題に向かっての手立てについても共有に留まらず、実際の保育にそれぞれが意識して取り組めるきっかけとなった。
- ・個別のケース会議では、子どもの様子に加え、保育者の読み取りや手立てを項目化して伝え合うことで、明確になり、担任以外の保育者からの視点、気づきも聞くことができ、今後の関わりに生かせるものとなった。このことをきっかけに一人一人のこどもを丁寧に見つめ、気づきを伝え合う機会も増えたように思う。
- ・個々の様子に合わせて関わること（保育者自身の関わり・環境を整えること）で、子どもが自分の気持ちや思いをわかってくれるうれしさ、大事にされている実感をもつことができ、その安心から自然に自分の気持ちを表出したくなる気持ちを育むことがわかった。また、そのことから自分の遊びや生活が充実してくると、友だちにも温かい気持ちが向けられ、温かい気持ちが広がっていくと感じた。

方法（2）について

- ・自己決定を促す働きかけでは、自分で選びとって遊べる、表現できる環境を整えることが大切であることがわかった。それは、自分のやりたいことができる、安心できる場・遊びが保障されることであり、自ら遊びを考え、工夫し、試していく楽しさが膨らんでいく姿が見られた。そこに、友だちや保育者とのかかわりが生まれることにより、共に遊び、さらに遊び込んでいく姿も見られた。
- ・自分のよさや友だちのよさに気づき、共に楽しんでいくことがわかった。保育者や周りの友だちと思いを共有したり、一緒に遊びを広げ、深めていくことで、のびのびといきいきと自己表出するようになったと考える。
- ・また、絵本や図鑑などもその時期や季節に合ったもの、興味のあるものを並べるようにしている。子ども達が自分で考えたり調べたりするヒントを見つけて楽しんでいる。

方法（3）について

- ・保育者自身が一緒に遊び、その子ども一人一人の思いを感じ、共有することが大切であると考え。 “自分は自分でいいんだ”という思いがもてるよう、振り返りの時間を遊びの中や帰りの会などで大切にしている。そこで、みんなが自分の思いに気持ちを寄せてくれたり、認めてくれたり、一緒に考えてくれたりすることで、みんなの中でも安心できること、自分は大事にされていることを実感し、その積み重ねが自己肯定感を育てていくように思う。
- ・【みんなのきらりんみ～つけた】を合い言葉に、自分のこと、友だちのことで心が温かくなることを発見したときに、見える形に残して、自分のよさと互いのよさに気づける機会にしている。保育者だけでなく、子ども達の意識にも互いのよいところを見つけようとしたり、自分のここはいいなと思い、保育者に伝える姿がよく見られるようになった。また、形に残すことで、自分で自分を振り返り、いい気持ちが心に膨らんでいるように感じている。園長先生からもきらりんシールをもらい、子どもから保護者へ、保護者と先生といった、温かいコミュニケーションが広がってきている。また、保育者が子ども達の素敵なところを話す機会も増えて、安心できる幼稚園につながるよう今後も継続していきたい。

方法（4）について

- ・げんきっこタイムの時間を異年齢で関わって遊ぶ時間とし、いろいろな友だちと触れ合って楽しい気持ちを共有できる時間としてきた。年上の友だちが手をつないであげたり、教えてあげたり、年下の子どもにとっては一緒に安心している姿も見られる。また、互いを意識して、隣のクラスへ行き来している。年上の子は、頼りにされること、憧れられる自分を感じ、年下の子は憧れの気持ち、自分も同じようにしたいと温かい気持ちが育まれているように思う。
- ・廊下の空間にみんなで遊べるスペースを作ったことで、自然に関わり合う姿がある。手伝ってあげたり、友だちのを見て刺激をもらったりと、楽しい場所となり、新たな人との関わりも出てきている。
- ・絵本の部屋を1階の部屋にし、絵本の配置、机や敷物など、ゆったりくつろげる雰囲気スペースにした。そこに集まったいろいろな年齢の友だちが、自然に一緒に遊び出したり、絵本を一緒に読んでいたりしている。

☆子どもの発達を後押しするための絵本の充実について

子どもに良いと思われる絵本の選定や読み聞かせの機会を増やすようにしてきた。今年度も人権に関する本をたくさん購入した。そして、これまでのことが評価され、令和6年度子供の読書活動優秀実践校表彰で文部科学大臣賞を受賞することになった。この取り組みは、子どもだけでなく保護者にも良い影響を与えていると感じている。

※絵本の選定については、安来図書館の司書の方に聞いたり、県立図書館の推薦図書を参考にしたりしています。園の読書についての取り組みは文部科学省の子ども読書の情報館サイトに掲載されています。



6月14日 朝日新聞に掲載されました。

〈今後の課題〉

- 個別のケース会議を行って、一人一人について全職員で共有、子どもへの手立てが見えてきてよかったが、定期的に行うことが難しかった。みんなが、気づいたときに書き込めるものを用意したり、どこに視点をあてて話すかを決めるなど工夫をして、子どもの育ちを支えていきたい。全職員での子ども理解は、子どもの安心感につながるだけでなく、保育者一人一人の安心感にもつながったと感じる。そして、全職員の勤務形態は違うが、保育者同士の温かい雰囲気を作るために、今後も全職員で子どもを支えるための連携を大切に保育を進めていきたい。
- 保育者直接の関わりだけでなく、環境を整えることで、主体的に友だちと関わろうとする姿、互いの良さに気づく機会につながっていることから、日々の環境の再構築のために他園との共有も模索していきたい。
- 全体を通して、人権教育は、「大人が子どもを大切にできる教育」ということから、その体験を子どもがたくさんできるように私たち保育者は、自分自身の保育を振り返り偏見などにとらわれない様々なものの見方や感性を身につけていきたいと思う。そのためには、保育者の定期的な研修をしていく。そして、共に子どもの育ちを支え、喜び合える保育者集団、保護者との連携を大事に今後も日々の保育を進めていきたい。

全職員による子ども理解



令和5年5月中旬

園の課題を明確するために、KJ法を使って、子どもたちの姿について職員で共有していった。



令和5年6月27日

園内研修

講師：八木 優先生

「島根がめざす人権教育について」

「自園の課題を見だし、その解決に向けて見通しをもつ。」

令和6年度 園内研修

講師：兼本 圭介先生

講師：上田 稔枝先生

「保育について」「研究について」



四季を楽しむ園の暮らし



春

4月下旬

園庭にある八重桜を使って桜茶作り
〈年長児の活動〉



夏

7月5日

保護者の人と一緒に楽しんだ

七夕まつり



柿の皮むき

秋

吊るし柿甘くな〜れ



冬

築山でそりすべり

何度滑ってもおもしろい

異年齢での活動



野菜の収穫（4歳児と5歳児のかかわり）
同じピーマンを植えた2人が一つしか取れなかった
ピーマンを一緒に持って収穫を喜び合う



いろいろな年齢の友だちと
一緒に川作りを楽しむ



園庭の花を使って色水ジュース作り
やり方を伝え合って、おいしいジュースができた



シャボン玉遊び



毎朝全園児で行うげんきっこタイム
マラソンや体操をする



教え合って体操をする子どもたち

心を躍らせる様々な体験



防災公園

芝生が広がる公園で、おもいっきり走ったり鬼ごっこを楽しんでいる



社日公園

遊具で遊んだり、身近な自然を見つけたりして楽しんでいる



緑地公園

虫取りを楽しんでいる



釣れたー

9月中旬
中海の防波堤で、
おうちの人とゴズつり

おいしいよ。食べてね



木戸川での白鳥のえさやり

こいさん、お〜い

コイのえさやり

地域の方のご好意により
毎年、玉ねぎやサツマイモ畑での体験を
させて下さっている



5月上旬
玉ねぎ収穫

おいも、みつけた！

やさしく土のふとん
をかけよう



5月下旬
サツマイモの苗植え

おいも、とってもおいしい！



10月中旬
サツマイモ収穫



秋の味覚を味わう
地域の方を招待して、“おいも会”

子どもの育ちを支える他者との関わり

読み聞かせボランティアの方々



20年間にわたっている、毎週1回ボランティアで来て下さる絵本サークルの方の絵本の読み聞かせタイム

ALT 教師との関わり



英語の絵本の読み聞かせ



英語で、じゃんけんポン！！

ALTの先生に英語の絵本を読んでもらったり、遊びを教わったりすることで言葉や言語、文化、考え方など多様な経験を関わりの中から習得している

ふるさと愛につながる活動



発表

発表



安来節保存会の方による年6回の安来節男踊りと銭太鼓の教室。本物の文化とその伝統を教えていただく師匠さんとの関わりで子どもたちは真剣に教わろうとする意欲が感じられます。生活発表会では覚えた成果を保護者の方に見てもらいます。

保幼小交流



12月上旬
十神小学校児童との関わり
作品展を見に来てもらう。(全学年)



その後、お礼の手紙をもらい、すぐに自分たちで壁に貼りました。



3学期
安来保育所との関わり
園庭で遊んだり、ゲームを楽しんだりしました。



地域行事への参加



8月14日

2024 安来月の輪まつり



10月下旬
十神地区文化祭



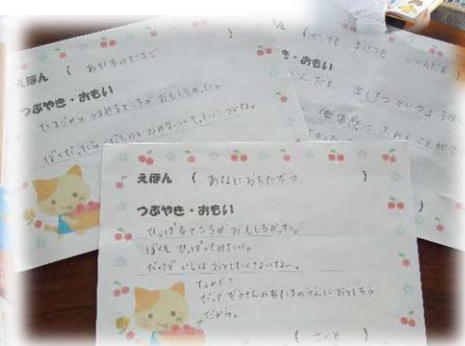
子育て支援



9月13日

子育て講演会 「子どもの体のおかしさって？」

講師：藤田 優子先生



人権教育に関する絵本の購入
子どもたちが絵本を借りることで家庭において人権教育のきっかけ作りになっている

毎週1回保護者への絵本貸し出しを実施

借りた絵本から、子どもたちのつぶやきや感じたことをメモで届けてもらっている。

【様式_幼】

(安来市) 立 (安来) 幼稚園 令和 (6) 年度 人権教育全体計画

園の教育目標 たくましく 心豊かに伸びる幼児の育成

- ・明るく伸び伸びと行動し、思いを素直に表現する子ども
- ・お互いの考えを認め合い、関わり合い、協力し合う子ども

人権教育推進上の目標

- ◎人権尊重・生命尊重の芽生えを育み、自分を大切に思い他者も大切に思える子どもに育てる。
- ◎基本的な生活習慣や人への信頼関係を育て、心情、意欲、態度の身についた子どもに育てる

具体的目標・方策

① 子どもたち一人一人の学びの保障

- ・基本的な生活習慣を身に付け、意欲的に遊びに取り組む子どもを育てる。
- ・自然とのかかわりの繰り返しの中で、豊かな感性を育てていく。
- ・子どものありのままを受けとめ、情緒の安定を図りながら信頼関係を築く。
- ・ありのままの自分を好きになり、自分に自信を持って行動できる子どもを育てる。
- ・様々な活動により自己を発揮する経験を重ねていく。
- ・人との関わりの中で様々な気持ちの体験を重ねながら、人と関わる力を育てていく。

② 人権が尊重される環境づくり

- ・子どもたちが安心して生活や学びが出来る環境作り。
- ・一人ひとりが自分らしさを発揮し、存在感を感じられるよう援助する。
- ・子どもの発達や特性などに応じたインクルーシブ保育を行う。
- ・喜び合ったり、励まし合ったりなど気持ちを分かち合えるクラス作りをする。
- ・外国人講師との交流等異文化に触れる機会を持つ。
- ・子どもの表面上から判断するのではなく、表情や行動の裏にある子どもの願いや心の動きをくみ取り、職員間で共有し適切な援助を行う。
- ・人権を内容とした絵本や紙芝居などを読み聞かせしていく。

園児に身に付けさせたい
資質・能力

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成

	人権に関する知的理解		人権感覚	
	知的側面	価値的・態度的側面	技能的側面	
三歳児	・友だちに対して親しみの気持ちを持ち、関わりを楽しんでいく。	・してよい事、してはいけないことを知り、導かれて身につけていく。 ・自分でできることは自分でしようとする。	・自分の気持ちや願いを相手に伝える。	
四歳児	・友だちの良さに気づきお互いを認め合う。 ・友だちの気持ちに気づき、相手にも思いがあることがわかる。	・自分の思いや願いを言葉や行動で表そうとする。 ・生活や遊びの中で、苦手なことでも取り組もうとする。	・遊びや生活の中で、苦手なことでも取り組む。 ・身の回りのことなど自分でする。	
五歳児	・友だちの思いがわかり。互いの思いを大切にしながら、行動する。 ・自分の健康・安全を守ろうとし、言葉で伝えたり行動したりする。	・相手への思いやりの気持ちを持ち、接する。	・困難に出会った時には、自分たちで乗り越える。 ・自分の考えを相手にわかるように言葉にして伝える。	
異年齢	・いろいろな友だち、いろいろな気持ちがあることに気づく。 ・場を通して、一緒にいる心地よさや雰囲気共有する。			